校長室だより～燦燦～ №７８６

高校の先生

2023.7.5

この前、知り合いの高校の校長先生から電話をいただいた。用件以外にも、いろいろな話をした。「高澤先生は、役職定年の後は、どうされるんですか」と聞かれた。私の年代の共通した話題の一つである。

その先生は、校長になった後も、教材研究を続けているような人である。今でも、大学入試問題を解いているという。役職定年後に、教壇に戻る準備をしているのだそうだ。授業ができることを楽しみにしているという。

もう一人、知り合いの校長先生がいる。この方も、大学入試問題を解いている。校長室前の廊下には、この先生が準備したプリントが並んでいる。生徒が持っていくのだという。校長による補習のようなものである。

二人とも、楽しそうなのである。一方、私はというと、授業に関して、ああだ、こうだと指導めいたことは言っているが、自分では何もしていないに近い。梁川高校にいるときには、国語の教科書を数冊読んでみた。おもしろい。正直言って、中学校の教科書よりもおもしろい。読み応えがある。ついでに、資料集（国語便覧）も読んでみた。教科書よりも、さらにおもしろい。様々な情報が詰まっている。国語の情報の宝庫である。

中学校に来てからは、そういえば、じっくりと国語の教科書を読むということをしていない。必要なところしか読んでいない。逆に、社会や理科の教科書の方がよく見ているくらいである。リーディングスキルの影響かもしれない。社会好きなので、社会の授業を参観しながら教科書もよく見ている。これがおもしろい。

専門性の高い高校の先生というのは、お二人のようになるのだろう。授業が楽しいし、授業をやりたいのだそうだ。今の自分は、授業をやってみたいという気持ちはあるが、やれるのだろうかという不安もある。指導助言などの機会に、こうすればいいなどと話していると、さも自分にはできそうな錯覚に陥る。話していることのほとんどは、自分が授業をしていたときにはできなかったことである。

漢字はどんどん出てこなくなっているし、短期記憶力も落ちているし、そろそろ高校の教科書でも読んでみようかと思う。もともと小説は好きだが評論や随想が好きなのである。高校のお二人の足元にも及ばないが、お二人の気概のようなものには触発される。このお二人と机を並べて仕事ができたことは、我が人生において、かなり幸運であったことに気付かされた。お二人のご活躍を楽しみにしたい。